

奥会津の人と気持ちが好き

12年続く雪おろし体験ボランティア



右／只見ホームを除雪
下右／奈良県からの参加者もあった
下左／にしん漬はここでしか食べられないと好評だった



10回目の参加となった雪おろしボランティア

藤田 保男さん

NPO法人ハートネットふくしま（郡山市）主催の「雪おろし体験ボランティアin奥会津」が、今年も只見町にやってきました。12回目となる今回は、県内外から12人が参加しました。雪おろしと地元の高齢者やボランティアとの交流を深めることを目的におこなわれています。

一行は1月30日から奥会津の金山町、昭和村、三島町での雪おろしをし、31日午後から2月1日午前中にかけて只見町で雪おろしをおこないました。

只見町では、平成4年に町が主催した海外研修事業「町民の翼」で欧州に行った研修生でつくるシエルナッハの会が受け入れ団体となっています。

例年と比べ雪が少ないため、雪おろし体験には少し物足りなさもあったようですが、ボランティアは只見ホームの窓明かりをとるための除雪をしたり、民家周りの除雪をしたり、精力的に活動していました。

1日の昼食は、食生活改善推

進委員の菅家紀子さん、菅家文子さんの協力で、只見の郷土料理「ざくざく煮、にしん漬け、ぜんまいなどを味わいながら、交流を深めていました。

郡山市から参加した藤田保男さん（72歳）は、「10回目の参加になります。15年前に病気になったことがきっかけで、ボランティア活動を始めました。奥会津の人と気持ちが好きです。心のこもった料理もいただきました。また来年も来たいと思います」と話していました。

ハートネットふくしまでは、「この時だけしかお手伝いできないので、雪おろしはあまり役に立たないかもしれないと。しかし地元の方との交流を続けていくことになるのではと思っています。つながりを大切にしていきたいと思えます」と話していました。ハートネットふくしまは、昨年6月に起きた宮城・岩手内陸地震の被災地栗原市栗駒で、毎週日曜日、炊き出しをおこなっています。